

## 旧東海道から七里の渡しへ

6月に大学の講義で小三亀松師匠の都々逸を聞いてから、熱田・伝馬町にある発祥の地のことが気になった。インターネットで大まかな場所を調べて、伝馬町に向かった。なかなか見つからなかったが、伝馬町の旧東海道沿いに「都々逸発祥之地」という石碑があった。

庶民の愛  
唱歌「どどい  
つぶし」が伝  
馬町で誕生  
したのは、



寛政12年(1800)頃とされる。その後、関東一円に流行し「名古屋生まれの東京育ち」といわれる。あの「7.7.7.5」の26音からなる都々逸が、今から200年余り前に旧東海道沿いで産声をあげたことを知って感慨深いものがあった。

江戸時代の東海道は、熱田から桑名の間を渡して結んでいた。陸路は北を回った佐屋街道であった。七里の渡しは公園として整備されていた。そのあたりは古い町家もあり、すこし歩くと行列の店があつた。名古屋名物「ひつまぶし」で知られる蓬萊軒である。「なごやめし」ブームを実感できた。ここは奉行所

跡地であった  
そうだ。熱田  
神宮から旧東  
海道、そして  
七里の渡しな  
ど回遊性のあ



る散策が楽しめそうだ。

(2007年10月26日 記)